

□□ナ禍において作業療法士・理学療法士養成教育は充実できている？

2020年1月に国内での新型コロナウイルス感染者が確認されてから、日本の産業・経済・教育等に大きな影響を及ぼした。義務教育は前首相の一声でストップし、続いて高等教育も停止し、本学では、2年次生に配置した1週間の実習は半分の時間に短縮した。2020年4月からは全ての授業が「オンライン授業」へ切り替わった。

幸いに本学は数年前から学修支援ソフトを導入し、さらにリハビリテーション学科学生には「パソコンは必携」と案内していたので、全ての授業が「オンライン授業」移行しても大きな混乱は生じなかった。私自身はOT協会の理事をしていた8年以上前から「インターネット会議」を導入し、居住地（金沢市）と協会事務所（東京田原町）を結んで役員会等を実施してきた経験から、対象を「教員と学生間」に置き換えることで対応できた。しかし、学生の臨床実習はオンラインでは実施不可のため、「中断・中止」の対応に追われた。

一方、「文部科学省高等教育局・厚生労働省医政局・他」から臨床実習等に関して下記の事務連絡があった（令和2年2月28日と6月1日）。

「—前略— 実習施設の変更を検討したにもかかわらず、実習施設の確保が困難である場合には、年度をまたいで実習を行って差し支えないこと。なお、これらの方法によってもなお実習施設等の代替が困難である場合、実状を踏まえ実習に代えて演習又は学内実習等を実施することにより、必要な知識及び技能を修得することとして差し支えないこと。—後



東京家政大学
清水 順市

略—10

この連絡を受けて、学
内の教員から、「実際に
障害者や患者と触れる実
習を経験しないで単位を与えてよいのか？」と投げ
かけられた。その理由は、教員同士が実施する検査・
測定や移乗動作法をWebで配信したが、その後の
対面授業で技術等を実技試験で確認したところ、学
生は「オンライン授業ではよくわからなかった」と
の応答です。必要なことは「対面での十分な説明と
実習」です。

さて、東大名誉教授 上野千鶴子さんは「人権リベラリズム」・「基本のき」（朝日新聞：2021年7月11日）において、「教育は洗脳装置です」—— 自由のない環境で育つと「それが当たり前だ」と考えることが容易なる。と述べてます。

リハビリテーション専門職を養成する大学教員は「洗脳装置のコントローラー」です。そして、臨床実習施設でのスーパーバイザーも「洗脳装置のコントローラー」です。学生にとって、「先生の方法・技術を真似る」、「スーパーバイザーの指示は忠実に守る」などが典型例です。しかし、コロナ禍はこの「洗脳装置」さえも十分に機能されていません。臨床実習時間が削られた状況下で学生は「自由のない環境で育った」ということも感じないでリハビリテーション専門職として育っています。そして私たちセラピストには、「どうなるか」ではなく、「どうするか」の行動が求められています。

CONTENTS

- ◆ コロナ禍において作業療法士・理学療法士養成教育は充実できている？…①
- ◆ 第17回東京都作業療学会の終了と新たな可能性…②
- ◆ 災害対策に関する都士会としての活動…④
- ◆ 新型コロナウイルス肺炎の医療機関における退院基準について…⑤
- ◆ 東京都作業療法士会福祉用具部からオンライン研修「住宅改修」のご案内…⑥
- ◆ 教育部からの案内…⑥

- ◆認知症のひとと家族の生活支援委員会 活動報告…⑦
- ◆認知症にやさしい本の紹介 VOL.28…⑦
- ◆活動報告と研修会開催のお知らせ…⑧
- ◆就労支援委員会活動報告…⑧
- ◆子ども委員会活動報告…⑨
- ◆第17回東京都作業療法学会 地域包括ケア対策委員会
ワークショップの報告…⑨
- ◆ブロック活動のお知らせ…⑩
- ◆「#作業療法の日」イベントのご案内…⑫

第17回東京都作業療学会の終了と新たな可能性

第17回東京都作業療学会実行委員長 齊藤 洸太

7月11日をもちまして第17回東京都作業療学会が無事、終了しました。

参加登録者は438名、うち学生と1・2年目の方が151名、他県士会・非会員34名でした。

今回、初めての取り組みとなるオンラインでの学会開催が出来たのは、一番に委員の方々の柔軟性と主体性が高いことだと感じます。コロナ禍で集まる事が危惧される世の中で「オンラインだけでやれない？」という話になった際は、自らが出来るようになるために、業者に運営サポートのみ契約を行い、自分たちで開催できるように、理解し考えて取り組んでいきました。こういった意識と取り組みで、多くのイノベーションが学会で生み出されていきました。このような活動が多く見られたのは、日頃患者様や利用者様の主体的な活動が引き出される支援や、環境を多角的に捉えることのできる優秀な作業療法士の集まりだったからだと思います。

また、参加者の方々がオンライン参加に慣れ始めていた事も大きいです。

「オンラインは普通」といった空気になったのは、学校や職場がオンラインツールを積極的に導入して頂いたことも大きな要因です。取り組みが継続されたことで、現場で行えない事の置き換えとしてのオンラインではなく、新しい手段になったのではないかと思います。

今回、延期になったとはいえ、いままでの学会より多くの演題登録がありました。これはオンラインによる参加のしやすさも考えられますが、所属機関で実施している自身の作業療法をより良くしようとする方が増えた事が要因なのではと感じます。発表いただいた皆様、この度は本当にありがとうございました。

今回、フルオンラインという形で学会を開催しましたが、現地で取り組む楽しさや充実もあると思います。大切なのは、多様な場が増えることで、その人にとって必要そんなニューノーマルな世の中において、本学会も一つの機会として刻まれたのではないかと思います。

改めて参加いただいた皆様、運営を行っていただいた委員の皆様、

協力して頂いた各団体の皆様、本当にありがとうございました。

TOKYO OT SIX BLOCKS

今後も都士会の企画が数多くございますので、皆様の生活が充実するよう

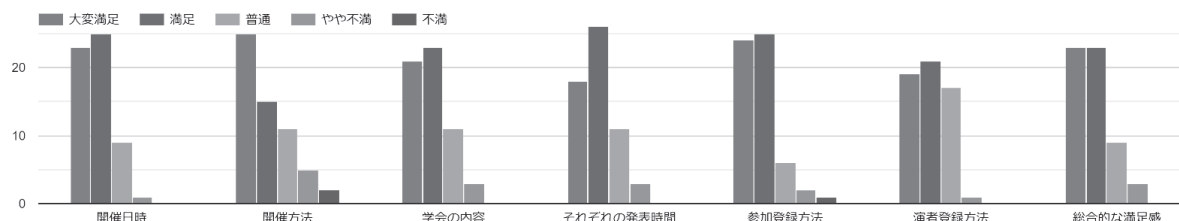
ご参加の程、よろしくお願い申し上げます

第17回東京都作業療学会 実行委員長 齊藤洸太

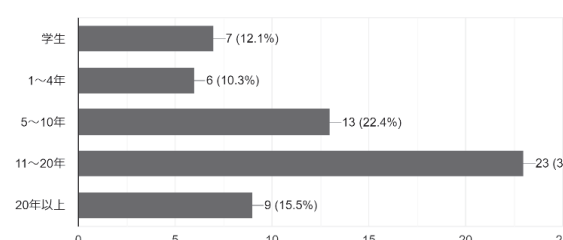
アンケート結果

有効回答数 n = 58

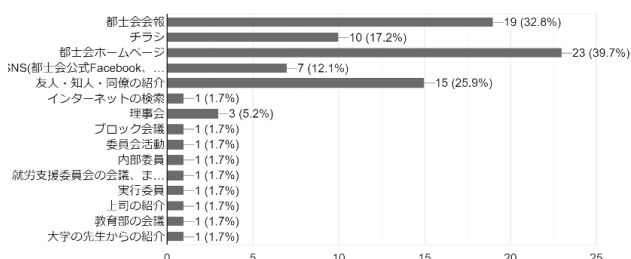
1. 満足度



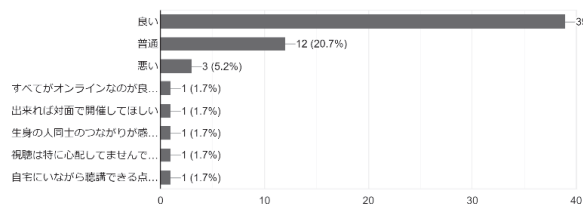
2. 参加者の経験年数



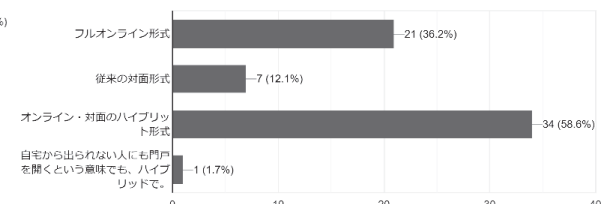
3. 今回の学会はどこで知りましたか？



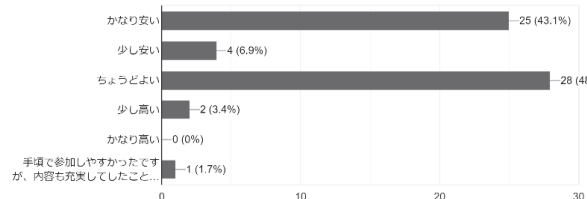
4. フルオンライン開催について



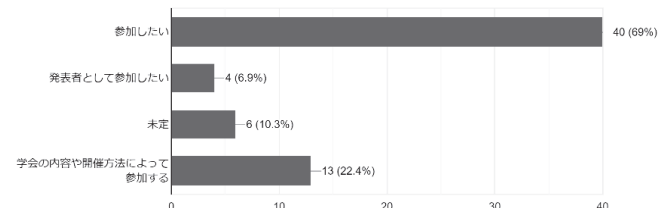
5. 今後望ましい開催方法について



6. 参加費について



7. 今後の東京都作業療法学会への参加意欲



<アンケート結果について>

全体の満足度は、8割以上が「満足」～「大変満足」と回答していました。経験年数は、5割が11年目以上を占めていますが、都学会という狭い地域での学会である事から、10年目未満の方の参加者・発表者を期待したいです。広報は、「ホームページ掲載」が「都士会ニュース」を上回りました。動画での広報も好評で、SNSによる拡散も見られたことから、紙面に限らない広報手段が時代になっている事が有効だったと考えられます。開催方法は、コロナ禍でもあり、フルオンライン開催が好評であったことと、次年度は対面の良さも味わいたいという意見もあり、「ハイブリット開催」を期待されている方が6割と多かったです。参加費は、「妥当」と「かなり安い」が9割を占めていた事が参加のしやすさを表しています。今後も参加についても7割が「参加したい」と答えています。内容については抄録から事前に発表動画が見れる事が好評であると同時に、動画の閲覧期間を延ばしてほしいという希望がありました。今回の結果を次回の学会につなげていきます。回答いただいた皆様、本当にありがとうございました。

災害対策に関する都士会としての活動

保険部担当理事 松岡 耕史

大規模災害が発生したら

首都直下型地震が発生した場合、約1万人の死者が出ると予測されている。被災地の住宅・施設は倒壊し、病院も機能なくなることが容易に想像できる。地震だけでなく、津波、土砂災害、洪水などの災害時には、まずは自身と家族の安全を確保する必要がある、その後自らが所属している事業所や医療機関の機能維持、普段のリハ業務の再開が重要となる。被災地のOTは通常の医療体制の再開に追われ、住民は避難所へ避難して生活することになる。避難所では生活不活発病が発生しやすく、その影響による歩行やADL能力の低下、さらには災害関連死にも繋がる。また、避難している住民の中には高齢者や障害者も含まれ避難所へのリハ支援が重要となる。

災害時に必要なりハ支援

＜被災地のOTに対して＞

被災地域のOTの所属先で通常医療が提供されるように、必要に応じて杖や歩行器などの福祉用具の物的な支援および人的な支援（ボランティア派遣）が行われる。

＜避難所などへの支援＞

避難所や福祉避難所などの環境整備や要配慮者・リハ対象者の把握、福祉用具の提供や個別支援など、物的・人的な支援が必要となる。被災地域のOTは自分の所属事業所・医療機関の通常業務の再開に手を取られるため、外部からの人手（ボランティア）が必要不可欠である。

都士会の災害対策の取り組み

災害時には、会員の安否や所属先・近隣の被災状況を確認し、被災地域において通常医療が提供できるか、避難所等への支援の必要性を把握する必要がある。そのため、平時から都士会は以下の取り組みを行っている。

1. OT協会との連携：毎年9／25から災害時シミュレーション訓練として会員の安否確認を以下の方法で実施している。
①都内の事業所・医療機関へ都士会Faxを送信、②インターネット（安否確認システム）を利用した安否確認、③ブロックの災害対策係を中心にブロック内での連携、④（同意を得た会員のみ）災害時メーリングリスト。
2. 東京都PT、ST士会との連携：三士会合同の安否確認システムの予行練習（年2回）、合同研修会（年1回）
3. 災害時リハ支援関連団体との連携：大規模災害時に東京都（行政）は地域リハ支援センターとJRAT（大規模災害リハ支援関連団体協議会）と協力して災害リハ支援を行っていく方針を出しており、各団体と連携している。

都士会員は平時から何をするとか

1. 避難所の確認・防災グッズの準備：発災時には何よりもまず自身と家族の安全が大切である。
2. OTとして：発災時には被災地の通常医療の再開が大切であり、職場内の災害時の対応の確認と通常業務に戻るための方法の確認が重要である。
3. 地域との連携：平時から近隣施設や市区町村の行政と顔の見える関係ができていることで、発災時に避難所へのリハ支援が入りやすくなる。今後は地域リハ支援センターが中心に地域の災害対策を進めていくため、支援センターが平時から行う災害関連の活動に参加して災害に関する情報共有がしやすい状態を作ることが重要である。

4. 災害リハ支援（ボランティア）を行いたい方：発災時、都士会はOT協会やJRATと協力して災害リハ支援に入る。災害リハ支援の担い手は、まずOT協会のボランティア登録者へ連絡されるため、OT協会のボランティア登録をして必要な研修を受けることをお勧めする。

＜災害発生を想定したシミュレーション訓練～全国OT士会一斉訓練～＞ 日時：2021年9月25日（土）～10月末

都士会Faxやインターネット（Googleフォーム）を通じた会員の安否・被災状況の確認を行います。

詳細は都士会HPでご確認ください。

問い合わせ担当者：松岡耕史（tokyootsaigaitaisaku@gmail.com）

新型コロナウイルス肺炎の医療機関における退院基準について

保険部 門脇 優

2020.1に新型コロナウイルス肺炎の流行が始まり、リハ職種が関わる機会が増えています。今回、感染症病棟からの退院基準を整理しました。（厚生労働省 2021/2/25事務連絡<https://www.mhlw.go.jp/content/000745527.pdf>）

1. 無症状病原体保有者の場合

- ①検体採取日から10日間経過した場合、退院可能。
- ②検体採取日から6日間経過後、24時間以上間隔をあけ2回のPCR検査または抗原定量検査の陰性を確認できれば退院可能

2. 有症状者の場合

【人工呼吸器などの治療を行わなかった場合】

- ①発症日から10日間経過し、かつ、症状軽快後72時間経過した場合、退院可能
- ②症状軽快後24時間経過した後、24時間以上間隔をあけ、2回のPCR検査で陰性が確認できれば退院可能。

【人工呼吸器などの治療を行なった場合】

- ①発症日から15日間経過し、かつ、症状軽快後72時間経過（発症日から20日間経過までは退院後も適切な感染予防策を講じること）
- ②発症日から20日間以前に症状軽快し、症状軽快後24時間経過した後、PCR検査または抗原定量検査で24時間以上あけ、2回の陰性を確認した場合

基準を満たした後は、①自宅退院 ②医療機関への転院 ③介護保険施設などへの転所となる。

東京都作業療法士会福祉用具部からオンライン研修「住宅改修」のご案内

今年度最初の福祉用具研修をオンラインにて開催いたします。

内容としては、『居室～玄関・アプローチ』に関する住宅改修のポイント、注意点、福祉用具などを取り入れ、臨床に役立つ実践的なものになっています。

2017年度から「ADLシーン別研修 『居室・寝室編』、『排泄編』、『入浴編』」と行なってきました。年明けに昨年できなかった『外出編（対面）』を考えています。その前にオンラインではありますが「居室～玄関」の住宅改修の研修を行い、福祉用具の実機に触れる研修に繋いでいきたいと考えています。

『住宅改修（居室～玄関・アプローチ）』

☆対 象：作業療法士协会会员かつ都道府県士会員 基礎ポイント2ポイント付与
その他（職種など問いませんが、定員を超えた場合には、会員を優先させていただきます）

☆参 加 費：作業療法士协会会员かつ都道府県士会員：無料
その他：1,000円

☆定 員：80名

☆開催日時：10月22日（金） 19時～20時30分 （入室受付 18時45分）

☆申込方法：下記のQRコードもしくはURLよりお申込みください。

締切 10月16日（土）

URL：https://eventpay.jp/event_info/?shop_code=5238587945919649&EventCode=P375318744



【問い合わせ先】

Mail：tokyo.ot.yougu@gmail.com
（＊を@に変えて送信してください）

【連絡先】

パナソニック エイジフリー株式会社 船谷
TEL：090-5456-8401

教育部からの案内

現職者選択研修（身体障害領域）

開催日：2021年10月30日（土）

身体障害領域の基礎知識：中本久之 先生（帝京平成大学）

急性期の作業療法：阿瀬寛幸 先生（順天堂大学医学部附属順天堂医院）

回復期の作業療法：清水竜太 先生（永生病院）

生活期・終末期の作業療法：神代利江 先生（ビコー訪問看護リハビリステーション板橋）

＊7月より募集開始している為、情報掲載時には定員に達している場合があります。

基礎ポイント研修（発達障害領域：子どもの行動を理解する）

開催日：2021年11月14日（日）予定

講 師：前川圭一郎 先生（東京学芸大学教育学部非常勤講師 日本ポジティブ行動支援ネットワーク理事）

詳細は東京都作業療法士会のホームページをご参照下さい。

認知症の人と家族の生活支援委員会 活動報告

東京福祉専門学校 渡辺 陵介

コロナウイルスの蔓延に伴い、会議や研修会はオンラインが主流となりました。当委員会でも会議はオンラインにて行っております。直接顔を合わせられないことは寂しい思いもありますが、オンラインでの会議や研修会のすべてを否定的にとらえているわけではありません。きっとみなさんも、オンラインになってよかった点もあるのではないのでしょうか。

そのような中、7月11日に行われた東京都作業療法学会では、テーマを「コロナ禍において、私たち作業療法士はこんなことに気づいたプラスの視点」として、ワークショップを開催しました。はじめにグループワークを行い、参加者のみなさんとコロナ禍での作業療法について討議を行いました。やはりコロナ禍で制限が増えたことが話題になりましたが、対象者の方にマスクをつけてもらう工夫や感染対策をしながらの集団活動等、様々な検討を重ねて対象者に作業療法を提供していることが共有できました。さらに、この状況だからこそその肯定的な意見もみられました。コロナ禍になってから、他職種が作業療法士のことを頼ってくれるようになった、理解してくれるようになった等の話がありました。これまで当たり前に行っていたことができなくなりましたが、だからこそ作業に焦点を当てた作業療法士が今求められているのだと思います。ワークショップの最後には、当委員会の委員によるまとめと提言を行いました。参加者のみなさんもとて熱心に聴いておられ、皆さんの臨床に役立つ内容をお届けできたのではないかと思います。

コロナ禍においても作業療法の本質を忘れず、創意工夫を施して、対象者の支援を続けていければと思います。まだしばらくコロナウイルスによる影響は続くと思われますが、その中で我々委員会ができることは何かということを考え、東京都作業療法士会の会員の皆様にとって少しでも役に立つ情報を届けて参りたいと思います。

認知症にやさしい本の紹介 VOL.28

川崎市教育委員会 川崎市立宮前図書館 課長補佐 舟田 彰

赤いスパゲッチ

藤川幸之助／さく 寺田智恵／え クリエイツかもがわ／出版社

話は主人公の葉（しおり）と長崎の離島に住むおばあちゃんとの文通の場面から始まる。毎回手紙に挟んでくれる葉にはおばあちゃんからのメッセージが書いてある。11歳のころおばあちゃんのところへ会いに行き、葉のために大好きな赤いスパゲッチを作ってくれた。葉が15歳の時、文通が毎回、同じ文面で字も少し雑に見えたことに気づく。次に会った時、おばあちゃんは葉に「あら、かわいいおじょうちゃんね。お名前は？」と。葉は驚き泣き出してしまい、お母さんからおばあちゃん（59歳）は「若年性認知症」と聞かされた。さらにおばあちゃんは料理ができなくなり、おじいちゃんと毎日お弁当買って食べていると葉は知った。でも、おじいちゃんは葉に「葉ちゃんは幸せだよ」と言う。葉が来る日にケチャップとソーセージを持ち、台所で「赤いスパゲッチ」と何度も言い、作り方が思い出せないで「葉ちゃん」と言いながら泣いていたと聞かされた。私はこの場面がとても印象的で、目頭が熱くなった。そして、葉自身がおばあちゃんに代わりスパゲッチを作り、おばあちゃんの前で葉は食べ、お互いにとても喜んだということで話が終わる。最後の頁の子どもでも理解できる認知症Q&Aコーナーも参考になる。作者は母親の認知症介護の体験を持つ。挿絵は版画であり色使いも静かで落ち着きを感じる絵本である。「印象に残ることはいつまでも忘れない」。

活動報告と研修会開催のお知らせ

自動車運転と移動支援対策委員会 委員長
東京都リハビリテーション病院 大場 秀樹

7月11日に東京都作業療法学会がオンラインで開催されました。当委員会では、「東京6ブロックの移動支援を考える」というテーマで、リハラボ訪問看護リハビリステーション町田の永島氏によるOTができる移動支援についての講演と「移動支援について、やっていることや困りごとを共有する」ことを目的にグループワークを行いました。

グループワークで共有された移動支援での困りごとは、「COVID-19の影響で公共交通機関利用の練習ができない」、「自動車運転再開に至らなかった方への代替手段の獲得が不十分である」、「電動車いすや自転車に乗ることができるかの医療的な判断が明確でない」などが挙がりました。また「地域の移動支援について情報を知らないためクライアントに提案できない」という声があり、情報収集の必要性が確認できました。さらに地域の中核的な病院に所属する方から、通所サービスの送迎車を地域住民の移動手段として活用できるか検討していきたいという意見があり、自治体と共に地域資源として提供できる可能性が示唆されました。

最後に、2021年9月24日（金）19時～21時にオンライン研修会「1都2府4県における作業療法士の自動車運転支援を考える」を開催いたします。今回は、都士会主催で近畿OT自動車運転支援プロジェクトの方々と、東京、大阪、京都、滋賀、和歌山、奈良、兵庫での自動車運転支援の取り組みやその実状について情報共有を図り、地域を超えた支援のあり方を考えていきたいと思っております。都士会ホームページに研修会の情報が掲載されております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

就労支援委員会活動報告

～第17回 東京都作業療法学会（以下、都学会）にてオンライン就労相談会を行いました～

都学会にて、「オンライン就労支援相談会 学会特別版 ～就労支援に関する疑問や困りごとに答えます～」を行いました。大阪を拠点にご活躍なさっている金川善衛氏をアドバイザーとしてお迎えし、「就労支援におけるOTの役割やOTが関わる意義」、「就労支援機関へのつなぎかた／つなげる時のポイント」などについて意見交換を行いました。また、参加者の方々からは「回復期病棟における評価や支援機関との共有の情報連携ツールがあるかどうか」、「デイサービスにおける復職支援」等、多くのご質問をいただきました。時間の都合で十分にお答えしきれなかった部分がありましたので、今後、企画するセミナー等を通じてお伝えできるよう検討いたします。

最後に、オンライン就労支援相談会のご案内です。本企画では、皆さんから就労支援に関する悩みごとや困りごとを挙げていただき、その解決にむけ、委員メンバーと一緒に検討します。OT同士の“つながりづくり”も大切にしている、聴講だけでも可能なアットホームな会なので、お気軽にご参加ください！

[オンライン就労支援相談会のご案内]

日 程：10月3日（日）13：30～15：00、12月3日（金）19：00～20：30

方 法：オンライン（ZOOM）

お申込み：QRコード（もしくは、東京都作業療法士会ホームページ＞会員の方へ＞
講演会・研修会・学会情報より）



子ども委員会活動報告

子ども委員会 松永優佳子

東京都作業療法士学会における子ども委員会企画について2021年7月11日（日）に、第17回東京都作業療法学会が開催されました。子ども委員会ではワークショップ企画にて「覗いてみよう！発達OTのアタマ」と題して、事例検討の様子をご紹介します。発達領域の作業療法士が、どのような思考・視点を持って評価をしているか、子ども委員会の委員によるディスカッションを中心に迫体験できる、新たな試みでした。年齢・基礎疾患などの簡単な事例紹介と数十秒という短い動画でしたが、そこから読み取れることや推察できることが、たくさんありました。より細かく評価していくための視点や、今後の支援の方向性、家族背景、家庭や学校などの日常生活についてなど、具体的な話がいくつもあがり、限られたセッション時間の中に凝縮されたリーズニングの大切さを、改めて実感しました。多くの方にご視聴いただき、チャットでは様々な方からご質問・ご意見をいただけたことで、評価の視点をより深めることができましたと思います。都学会がzoomを活用したオンラインでの開催だったからこそ、事例検討の様子をリアルに体験できるワークショップとなりました。

また、小学部の頃と高校生になった現在の様子を動画で拝見できたことも良かったと意見がありました。

今後も子ども委員会では、日々の活動や研修会の企画などにおける様々な試みを進めてまいります。研修会の開催など、改めて周知をさせていただきますので、その際にはぜひ、参加をご検討ください。

第17回東京都作業療法学会 地域包括ケア対策委員会ワークショップの報告 『語ろう！地域支援事業“はじめの一步”』

～地域支援事業参画状況の調査報告と実践者の活動紹介～
地域包括ケア対策委員 東京都リハビリテーション病院 中谷 美季

地域包括ケア対策委員会では、昨年度「地域支援事業参画状況調査」を行いました。回答結果は大変興味深いもので、「現在地域支援事業に参画していないが、今後参画したいと思っている」と回答した方が非常に多くいるという結果には期待感と責任感が高まり、当委員会が取り組むべき多くの課題をお示しくございました。

そこで、今後地域支援事業に参画したいと思っている方々を後押し出来るような企画として『語ろう！地域支援事業“はじめの一步”～地域支援事業参画状況の調査報告と実践者の活動紹介～』というワークショップを行いました。ワークショップの中では、既に地域支援事業に参画しているOTが、はじめの一步を踏み出したきっかけや、はじめの一步を踏み出した頃の経験・失敗、そして今まさにはじめの一步の準備をしているお話など、それぞれが奮闘してきた経験をお話くださいました。

はじめの一步を踏み出すのって勇気が必要ですが、まずははじめの一步を踏み出してみよう、踏み出すことで仲間と繋がる事が出来るよ、そんなことが伝わっていたら幸いです。

最後に、コロナ禍での初完全リモート開催という大きなチャレンジをしてくださった実行委員の皆様に感謝申し上げます。

ブロック活動のお知らせ

区中央部・南部・島しょ部ブロック

松本 俊

中央部・南部・島しょ部ブロックでは今年度も新たなメンバーが加わり始動しております。急性期・回復期・生活期だけでなく、教員・就労支援の分野に携わっているOTもいるため、より多角的な視点からブロック活動を盛り上げていけるのではないかと思います。

今年度は研修会や交流会として「ICTとリハビリテーションに関する現状について」の研修や「オンライン施設見学会」を通しての交流会等を予定しております。

このコロナ禍だからこそ、Webを活用しブロック内外のOT同士の交流を深め、患者さん・利用者の方に還元できるような活動ができれば良いと思っております。皆様の参加をお待ちしております！

区東部・東北部ブロック

坂 直樹

5月7日から7月9日まで、毎週金曜日に新人職員向け研修会をZoomで開催しました。全9回（各2コマ）のシリーズ化した研修は今回が初めてでしたが、大きなトラブルなく終えることが出来ました。参加者は延べ514名、各回で平均し60名近く参加して頂き、大盛況の研修会となりました。講師を務めて下さった皆様、委員の皆様には感謝申し上げます。

今回、ご協力頂いたアンケートを参考に、今後も研修会を企画・運営していきます。

今年度はあと2つ研修会を企画しています。1つは、ダイアログ研修会を11月に開催します。OT同士の交流や多職種連携等を充実したものにするために対話する力や機会を得られる内容になります。もう1つは、年明けに、認知症アップデート研修を予定しています。どちらも非常に充実した企画になりますので、ぜひご参加ください。詳細は都士会のHPでお知らせします。今後も当ブロックの活動へご参加・ご協力の程よろしくお願い致します。

西部・西南部ブロック

齊藤 洸太

夏も終わりですね、コロナがまだまだ落ち着く気配がない状態です。まずは改めまして、学会へ参加いただきありがとうございました。無事盛況で、運営委員もコロナ陽性者が出ずに修了しました。アンケートも好評で、低価格で受けやすいという意見もいただきました。こういった生の意見を取り入れて今後のブロック活動に活かしたいと思います。

また、新人の方も少しずつ業務に慣れ、新たな事にも取り組むようになる時期ですね。私は1年目の頃、9月に福祉住環境コーディネーター2級取得を目指して頑張ったことを思い出します。沢山の現場で得られた経験が合格という道を作ってくれました。作業療法士の国家資格もそうですが、受かる事より受かる過程で得られた経験や知識が今の仕事にも活かしていると感じます。人生経験が作業療法士としての自分を作っていくと先輩に教わりましたが、今考えると、めんどくさくても興味なくとも、なんでも断らずに取り組んだことが、今の業務に幅が出ていると感じます。

「無駄な事って無駄じゃない、無駄な事が一番近道」とイチローも言っていたので、これからも沢山の無駄を楽しみたいと思っています。

区西北部ブロック**神田 幸洋**

7月23日に第三回コロナ禍におけるOT情報交換会「オンライン施設見学会&交流会」を行いました。新たな試みとしてオンラインでの施設見学会を企画しました。今回はイムス板橋リハビリテーション病院に協力をして頂きました。リハ室内の動画と独自の取り組みについて話をして頂きました。交流会でも「新人育成」や「実習受け入れ」について情報共有を行いました。まだまだ、話し足りないとの声も頂いています。今後、第4回も企画していきます。区西北部ブロックのFB上で参加して頂いた方からの意見をまとめた資料も上げています。

また、8月14日に西部・西南部ブロックさんと共催でMTDLP基礎研修会を開催しています。来年の2月か3月には実践者研修（事例報告会）も企画していきます。区西北部ブロックではブロック委員を募集しています。

ご興味のある方は連絡頂けると助かります→tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com

北多摩ブロック**原田 祐輔**

先日、座談会「ツドイノバ」を開催しました。この「ツドイノバ」は、誰でも気軽に参加でき、さまざまな年齢や立場の方が交流する場を目指しています。第1回（6月）は、約30名の方にご参加いただきました。今後も定期的に開催していく予定です。お気軽にご参加ください。開催の詳細は都士会ホームページにて適宜お知らせいたします。

【ツドイノバ アンケートより】

とても交流できた47.6% 交流できた42.9% まあまあ交流できた9.5%

○感想

- ・ 交流の機会をつくっていただけてありがとうございました。ぜひ続けていきたいです。
- ・ 各施設、学校等で行っている活動を外へ広げるという意味でも、地域の方々とながらつながることができるこの場はとても良い場であったと思いました。
- ・ はじめて会う方との交流はとても刺激になります。職場以外の方とOTの話やなんでもない話などでもできるのはいい機会でした。

【今後の予定】

- ・ 勉強会：9月17日（金）18時00分～20時00分 Zoom
テーマ：コロナ禍での作業療法－実践報告－
- ・ 座談会「ツドイノバ」：10月、12月、2月 ※日にち未定

【ブロック活動に関するご意見・ご質問】 ot.kitatama@gmail.comまでご連絡ください。

西多摩・南多摩ブロック**今泉 幸子**

西多摩・南多摩ブロックでは、来年度の都学会の企画・運営を担当させていただく事になりました！来年の7月にコロナ禍がどのような状況になっているのかまだ予測ができませんが、オンライン開催を想定して企画を進めていきたいと考えております。どうかご支援のほどお願いいたします。

今年度はあと12月4日（土）にMTDLP基礎研修会のオンライン開催を企画しております。こちらへのご参加もどうぞよろしく願いいたします当ブロック運営メンバーは、コロナ禍でも毎月のオンライン会議を開催しながら楽しく活動しております。もしもブロック活動に興味があるという方がいらっしゃいましたらお申し出ください。

ご意見・ご要望・ご質問はこちらまで ⇒ swtamaot@gmail.com

「#作業療法の日」イベントのご案内

事業部 伊藤 啓史

都士会員の皆様、9月と残暑厳しい中、皆様いかがお過ごしでしょうか。東京都作業療法士会事業部です。幾度か都士会ニュースにてお伝えしていますが、現在、事業部で「#作業療法の日」を様々な形で盛り上げようと企画しております。

改めて、「作業療法の日」を皆さんいつかご存知でしょうか。9月25日になります。日本作業療法士協会が設立された日で、2009年から「作業療法の日」と制定されました。事業部では、「作業療法の日」を様々な人に知ってもらいたいと考え、今月号の都士会ニュースに付録として、ステッカーと色塗りできるイラストを封入させていただきました。是非、スマートフォンやPCの背面に貼ったり、イラストを職場や自宅で色を塗ったりして、Instagram、Twitter、FacebookなどのSNSに「#作業療法の日」を付けて一緒に盛り上げて頂けると幸いです。もちろん、他の自由な形で投稿して頂いても構いません。お手間で無ければ、SNSに投稿する際には「#作業療法の日」を付けて頂けると様々な形式でイベントを盛り上げる事が出来るのでありがたいです。

昨年度から、コロナウイルスによって人に会う機会が減ってしまい、互いの繋がりが薄くなってしまったと感じる方も多いと思います。今回のイベントを通して、東京都だけでなく、全国の（SNSなのでもしかしたら世界に!?）作業療法士同士が少しでも繋がりを感じて貰えたらと思います。

編集後記

つい先日、今回で2度目となる日本作業療法学会がオンラインでありました。オンラインでは移動時間を考慮せず、またオンデマンドで同時刻に重なっている講演や演題を聴講できるメリットがある反面、やはり現地の雰囲気を楽しむことができないデメリットもありますね。どうか1日も早くコロナが収束しますように。

今月号から連載物として災害対策と作業療法について掲載を開始しました。何をどこまで想定しても想定外のことは起こりますし、臨機応変さ、柔軟な対応は必要ですが、想定範囲を少しでも広げておくことでいざという時に役立つことは必ずあると思います。各職場での防災に対する取り組みや被災地でのボランティア経験などを執筆して下さる方、随時募集しております。それではみなさん、くれぐれも感染管理にはご注意下さい。

広報部長 水口寛子

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL：03-6380-4681 FAX：03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。